



2020年3月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

2020年2月4日

上場会社名 日新製糖株式会社
 コード番号 2117 URL <https://www.nissin-sugar.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 森田 裕
 問合せ先責任者 (役職名) 財務部長 (氏名) 大場 健司
 四半期報告書提出予定日 2020年2月13日
 配当支払開始予定日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
 TEL 03 - 3668 - 1293

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の連結業績(2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	37,661	0.4	3,163	12.2	3,287	12.1	1,603	19.6
2019年3月期第3四半期	37,824	0.2	2,819	49.0	2,933	25.8	1,994	19.9

(注) 包括利益 2020年3月期第3四半期 1,447百万円 (23.5%) 2019年3月期第3四半期 1,892百万円 (5.4%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	72.61	
2019年3月期第3四半期	90.34	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	60,102	51,112	85.0
2019年3月期	62,235	51,188	82.2

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 51,112百万円 2019年3月期 51,188百万円

(注) 2020年3月期第1四半期連結会計期間において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2019年3月期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期		36.00		34.00	70.00
2020年3月期		35.00			
2020年3月期(予想)				35.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2020年3月期の連結業績予想(2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上収益		営業利益		税引前利益		親会社の所有者に帰属する当期利益		基本的1株当たり当期利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	円 銭
通期	48,000		3,200		3,500		2,500			113.23

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2020年3月期第3四半期まで日本基準を適用し、2020年3月期通期より国際財務報告基準(IFRS)を任意適用するため、2020年3月期の連結業績予想についてはIFRSに準拠した数値を表示しています。このため、対前期増減率は、表示していません。

(参考) 日本基準の2020年3月期の連結業績予想

通期 売上高 49,000百万円 営業利益 3,200百万円 経常利益 3,400百万円 親会社株主に帰属する当期純利益 1,700百万円

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3)四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

2020年3月期3Q	22,673,883 株	2019年3月期	22,673,883 株
------------	--------------	----------	--------------

期末自己株式数

2020年3月期3Q	595,107 株	2019年3月期	594,935 株
------------	-----------	----------	-----------

期中平均株式数(四半期累計)

2020年3月期3Q	22,078,870 株	2019年3月期3Q	22,079,365 株
------------	--------------	------------	--------------

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(企業結合等関係)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済につきましては、消費税増税や相次ぐ自然災害の影響がみられながらも、個人消費が雇用・所得環境の改善を背景に緩やかに回復を続けた一方、輸出や企業収益に米中貿易摩擦を起因とする世界経済減速が影響し、全体的には力強さに欠ける状況となりました。

当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高37,661百万円（前年同期比0.4%減）、営業利益3,163百万円（同12.2%増）、経常利益3,287百万円（同12.1%増）となりました。特別損失において、タイの砂糖製造販売大手 Kaset Thai International Sugar Corporation Public Company Limited（カセタイ）株式の市場価格が、干ばつなどを原因とした業績悪化観測により同国の他の製糖会社と同様に著しく下落したことから、その持株会社株式（時価のない投資有価証券）について、投資有価証券評価損661百万円を計上しました。以上の結果、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,603百万円（同19.6%減）となりました。

セグメントの概況は以下のとおりです。

〔砂糖その他食品事業〕

海外原糖市況につきましては、第2四半期までは供給過剰感や最大砂糖輸出国ブラジルの通貨安などから下落基調にありましたが、その後は主要生産国であるインド・タイの干ばつなどを原因とした減産見通しに、原油高によるサトウキビのバイオ燃料への転用増加観測が加わり、値を上げて当第3四半期を終了しました。

海外原糖市況（ニューヨーク市場粗糖先物相場（当限））

	日付	セント/ポンド	円/kg	為替（円/ドル）
始 値	2019年4月1日	12.53	30.97	112.10
高 値	2019年12月13日	13.67	33.32	110.56
安 値	2019年9月12日	10.68	25.69	109.09
終 値	2019年12月31日	13.42	32.71	110.56

（注）1ポンドは約0.4536kgとして換算し、為替は当日の三菱UFJ銀行直物為替公表TTSによっています。
なお、12月31日は東京外国為替市場が休場のため、12月30日の三菱UFJ銀行直物為替公表TTSによっています。

一方、国内精糖市況（日本経済新聞掲載、東京）につきましては、前期末から変わらず上白糖1kg当たり187～188円で当第3四半期を終了しました。

このような状況のもと、主力の砂糖につきましては、当社独自製品の「きび砂糖」が好調に推移したものの、家庭内調理の減少が続き家庭用製品は減少しました。また、業務用製品は梅雨寒や行楽シーズン前の相次ぐ自然災害等により、飲料や土産菓子等の消費が落ち込んだことから減少し、砂糖全体の出荷量は前年同期を下回りました。その他食品につきましては、ツキオカフィルム製薬株式会社の製品が大手食品会社のノベルティに採用されるなど堅調に推移しました。

利益面においては、物流コストの上昇があったものの、採算を重視した販売に努めた結果、前年同期を上回りました。

以上の結果、砂糖その他食品事業合計の売上高は33,913百万円（前年同期比2.7%減）、セグメント利益は2,943百万円（同15.2%増）となりました。

〔健康産業事業〕

健康産業事業におきましては、主に総合フィットネスクラブ「ドゥ・スポーツプラザ」、「NAスポーツクラブA-1」と女性専用のホットヨガ&カラーゲンススタジオ「BLEDA（ブレダ）」ならびにコンパクトジム「DO SMART（ドゥ・スマート）」、「A-1 EXPRESS」を運営しています。当第3四半期連結累計期間に新たに東京都と神奈川県に「A-1 EXPRESS」を計4店舗出店しました。

前連結会計年度末に連結子会社化した株式会社エヌエーシーシステムが寄与し、売上高は2,570百万円（前年同期比44.6%増）となりました。「A-1 EXPRESS」などコンパクトジムも着実に業績を伸ばしていますが、総合フィットネスクラブ既存店舗の競争激化による不振や新店舗開店費用の負担増加から、セグメント損失は54百万円（前年同期は株式会社エヌエーシーシステム株式取得関連費用63百万円の発生によりセグメント損失2百万円）となりました。

〔倉庫事業〕

倉庫事業におきましては、冷蔵倉庫、普通倉庫ともに引き続き好調な貨物の在庫水準を維持し、売上高は1,176百万円（前年同期比1.4%減）、セグメント利益は274百万円（同3.5%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は23,676百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,126百万円減少しました。これは主に現金及び預金が1,421百万円、商品及び製品が253百万円、仕掛品が248百万円、原材料及び貯蔵品が250百万円それぞれ減少したことによるものです。固定資産は36,425百万円となり、前連結会計年度末に比べ6百万円減少しました。これは主に有形固定資産が535百万円、のれんが188百万円増加した一方で、投資有価証券が評価損等により825百万円減少したことによるものです。

なお、精製糖事業の基盤強化を目的に、2019年10月1日を効力発生日として王子製糖株式会社の砂糖事業を会社分割の形式で継承したことにより、のれんを450百万円計上しました。詳細は、「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項（企業結合等関係）」に記載のとおりです。

この結果、資産合計は60,102百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,133百万円減少しました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は6,505百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,676百万円減少しました。これは主に支払手形及び買掛金が1,315百万円、未払法人税等が350百万円それぞれ減少したことによるものです。固定負債は2,484百万円となり、前連結会計年度末に比べ381百万円減少しました。これは主にその他固定負債が311百万円減少したことによるものです。

この結果、負債合計は8,990百万円となり、前連結会計年度末に比べ2,057百万円減少しました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は51,112百万円となり、前連結会計年度末に比べ76百万円減少しました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益1,603百万円および剰余金の配当1,523百万円、その他有価証券評価差額金の減少123百万円によるものです。

この結果、自己資本比率は85.0%（前連結会計年度末比2.8ポイント増）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第4四半期のわが国経済は、海外経済において米中貿易摩擦が緩和しながらも、世界的な感染拡大が懸念されている新型コロナウイルスによる影響や、その他の地政学的リスクの高まりなどの先行き懸念から、全体的には力強さを欠く状況が予想されます。

当社グループを取り巻く環境につきましては、主力の砂糖その他食品事業におきましては、国内砂糖消費量の減少に加え、主要生産国であるインド・タイの減産予測を背景として、海外原糖市況が上昇基調になるなど、予断を許さない状況となっています。適切な原料調達と、市場の変化に臨機応変に対応し、採算を重視した販売に努めるとともに、ツキオカフィルム製薬株式会社等その他の食品分野における収益力拡大に努めてまいります。

健康産業事業におきましては、総合フィットネスクラブ既存店において、会員獲得競争の激化による厳しい事業環境が予想されます。これに対し、ジム特化型小型店舗の「DO SMART（ドゥ・スマート）」本庄店（埼玉県本庄市）を2020年1月に開業するとともに、引き続き24時間コンパクトジム「A-1 EXPRESS」の積極的出店、総合店の24時間営業化など、増大する顧客ニーズの多様化・専門化に応じてまいります。

倉庫事業におきましては、冷蔵倉庫・普通倉庫ともに引き続き好調な在庫水準の維持、稼働率の向上に努めてまいります。

なお、特別損失において、当第3四半期連結会計期間（日本基準）において計上した投資有価証券評価損661百万円につきましては、IFRSにおいては当該投資有価証券の公正価値の変動をその他の包括利益において認識することから、2020年3月期通期（IFRS）の親会社の所有者に帰属する当期利益に与える影響はありません。

以上の結果、2019年10月31日の「2020年3月期 第2四半期決算短信」で公表しました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,900	9,479
受取手形及び売掛金	4,955	4,980
有価証券	3,600	3,600
商品及び製品	3,353	3,099
仕掛品	496	248
原材料及び貯蔵品	2,196	1,946
その他	302	324
貸倒引当金	△1	△1
流動資産合計	25,803	23,676
固定資産		
有形固定資産		
土地	8,606	8,606
その他(純額)	7,085	7,621
有形固定資産合計	15,692	16,228
無形固定資産		
のれん	1,815	2,004
その他	217	258
無形固定資産合計	2,032	2,262
投資その他の資産		
投資有価証券	16,493	15,668
退職給付に係る資産	451	549
その他	1,842	1,728
貸倒引当金	△80	△10
投資その他の資産合計	18,707	17,935
固定資産合計	36,432	36,425
資産合計	62,235	60,102

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	3,676	2,360
短期借入金	1,300	1,300
未払法人税等	844	493
引当金	353	183
その他	2,008	2,168
流動負債合計	8,182	6,505
固定負債		
引当金	198	118
退職給付に係る負債	137	147
その他	2,529	2,217
固定負債合計	2,865	2,484
負債合計	11,047	8,990
純資産の部		
株主資本		
資本金	7,000	7,000
資本剰余金	11,821	11,821
利益剰余金	29,486	29,566
自己株式	△299	△300
株主資本合計	48,008	48,088
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	896	773
繰延ヘッジ損益	2	1
土地再評価差額金	2,191	2,191
退職給付に係る調整累計額	89	57
その他の包括利益累計額合計	3,179	3,024
純資産合計	51,188	51,112
負債純資産合計	62,235	60,102

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	37,824	37,661
売上原価	29,177	28,411
売上総利益	8,647	9,249
販売費及び一般管理費	5,827	6,085
営業利益	2,819	3,163
営業外収益		
受取利息	1	2
受取配当金	61	35
持分法による投資利益	58	89
その他	22	26
営業外収益合計	144	154
営業外費用		
支払利息	20	17
支払手数料	6	6
その他	2	6
営業外費用合計	30	30
経常利益	2,933	3,287
特別利益		
固定資産売却益	—	0
投資有価証券売却益	3	0
特別利益合計	3	0
特別損失		
固定資産除却損	30	25
投資有価証券売却損	5	0
投資有価証券評価損	—	661
特別損失合計	36	687
税金等調整前四半期純利益	2,900	2,600
法人税等	906	997
四半期純利益	1,994	1,603
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,994	1,603

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	1,994	1,603
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△85	△123
繰延ヘッジ損益	△0	△0
退職給付に係る調整額	△9	△31
持分法適用会社に対する持分相当額	△5	0
その他の包括利益合計	△102	△155
四半期包括利益	1,892	1,447
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,892	1,447
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しています。

(企業結合等関係)

1. 会社分割（簡易吸収分割）による事業承継（王子製糖株式会社）

(1) 企業結合の概要

①被取得企業の名称およびその事業の内容

被取得企業の名称 王子製糖株式会社

事業の内容 砂糖事業（砂糖の製造ならびに販売）

②企業結合を行った主な理由

当社精製糖事業の基盤強化を図るため

③企業結合日

2019年10月1日

④企業結合の法的形式

王子製糖株式会社を分割会社、当社を承継会社とする会社分割（簡易吸収分割）

⑤結合後企業の名称

変更はありません。

⑥取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価とした会社分割により被取得企業の砂糖事業を取得したため、承継会社となります。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2019年10月1日から2019年12月31日

(3) 被取得企業の取得原価および対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	691百万円
-------	----	--------

取得原価		691百万円
------	--	--------

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法および償却期間

①発生したのれんの金額

450百万円

②発生原因

主として、企業結合による砂糖その他食品事業拡大により期待される将来の超過収益力です。

③償却方法および償却期間

10年間にわたる均等償却

2. 比較情報における取得原価の当初配分額の重要な見直し

2019年3月31日（みなし取得日）に行われた株式会社エヌエーシーシステムとの企業結合について前連結会計年度において暫定的な会計処理を行っていましたが、第1四半期連結会計期間に確定しています。

この暫定的な会計処理の確定に伴い、当第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に含まれる比較情報において取得原価の当初配分額に重要な見直しが反映されており、主として顧客関連資産の認識などにより無形固定資産のその他に80百万円、繰延税金負債に27百万円が配分されました。

この結果、暫定的に算定されたのれん金額761百万円は、会計処理の確定により52百万円減少し、709百万円となっています。また、前連結会計年度末の無形固定資産のその他は80百万円増加し、投資その他の資産のその他は16百万円減少し、固定負債のその他は11百万円増加しています。